



ぶどうのささやき

9号

2011年
1月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

日本人の勤勉さをとりもどせ

新年明けましておめでとうございます。

産業クラスター研究会の皆様には日頃大変お世話になっており、当会の会員企業に対しまして種々ご指導いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、日本の政治経済は、今ほど疲弊し先の見えない時代はないのではないのでしょうか。バブル経済の前の日本人は、欧米各国から日本人は働くアニマルだといわれるほど、今よりもはるかに勤勉であり堅実であったと思います。しかしながら、その後の政府や官僚のとった政策は、労働時間の短縮や残業時間の規制であり、休日を増やしたり飛び石連休対策として国民の休日などを設けて三連休或いは五連休にしたことなどにより、日本の製造業はコスト高が顕著となって正社員の雇用を減らさなければならない状態に陥っております。

そうした結果、グローバル経済に対処するためとの大義名分をつけて大企業の多くが生産拠点を海外に移し、国内の産業空洞化によって、大企業の下請けである中小企業は仕事が減少して 1984 年の水準にまで下がってきております。

まず政府が一番先にやらなければならないことは、ばら撒きでも計画性のない税制改正でもなく、日本の産業空洞化に歯止めをかけることです。ニートの研修費用を政府が助成しても雇用の拡大には繋がりません。海外進出を目論む企業をできるだけ国内に引き止め、雇用の基礎をしっかりとさせることが求められております。それには、今のような就業時間の

社団法人 横浜北工業会
会長 佐藤 信夫



短縮や残業時間の規制を撤廃することが先決です。そして、休日は日曜日と本来の国民の祝日のみとし、稼働時間を増やすことによってコストの低減を図り、企業の活性化に繋げていくことが重要であると考えます。今のような一年のうち三分の一が休日であるような雇用形態を続けていけば更に産業の空洞化が進み、日本は沈没してしまうでしょう。戦後の復興に向けた日本人の勤勉さはどこに行ってしまったのでしょうか。

日本の労働文化は、働くことに喜びを感じることです。いくら政府がゆとりある生活を提唱しても休日があるだけではゆとりを実感することができず、むしろ不安な日々を過ごしているのが現状です。働いて給料を多くとり、そのことによってゆとりが生まれるのです。高速道路の無料化や値下げに関しては多くの国民は賛同しておりません。安定した雇用の裏づけがあって始めて人はゆとりを取り戻せるのです。現在のゆがんだ政策や制度には数えきれないほどの問題点があります。今こそ私どもは声を大にして主張するときではないのでしょうか。

(佐藤会長は現在 横浜高周波工業(株)代表取締役会長として経営に携わられる傍ら(社)横浜市工業会連合会会長の要職も務められています)

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

新年のご挨拶

理事長 木下 武

明けましておめでとうございます。内閣府認証NPO法人産業クラスター研究会も本年1月には満8周年を迎え、さらなる飛躍・脱皮を遂げる年を迎えます。これまでご支援・ご協力をいただきました会員の皆さま方に感謝・お礼申し上げますとともに、なお一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

一昨年春以来、理事長を含めた新任の役員・部長も3年目を迎え、微力ながら現状把握と積極活動に努めてまいりましたが、先行き不透明な経済情勢の中当会活動はまだまだ厳しい環境の中にあります。地域経済に密着した支援活動を行うという当会の目標達成に法人会員の皆さま方のますますのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

さて、本年の活動目標ですが、優先課題として昨年に引き続き、法人会員との関係強化・信頼構築に努めてまいります。具体的には、新たなニーズを掘り起し、新製品の開発・販売体制の支援、人材育成などに役立つように、皆さま方のご意見・ご要望を聴きとり新年度の活動指針に織り込みます。従来からの支援内容(特許調査、ISO取得、翻訳業務、HP作成、住宅リフォームなど)の充実・拡大にも努める所存です。

さらに昨年新設した環境事業部会は地域社会に密着した課題をとりあげ解決を図るとともに、社会貢献型のビジネスモデル構築に参画します。

また、昨年は財務体制強化の一環として認定NPO取得の検討を開始しましたが、本年は認定NPOを取得し、法人会員が寄付をし易いシステムをつくりたいと考えています。

昨年末、大学の先生に経営者の皆さまに元気になっていただく講演会をお願いし、多数の皆さまにご参加いただきましたが、そのご講演の中で「昨今の厳しい経営状態が続く背景には社会の変化がある、変化に対応するには社会を観る必要がある、社会を観る必要を訴えるのが企業の社会的責任(CSR)である」とのお話を拝聴し、NPOとしての当会の運営・支援活動もこの意識の共有を図るとともに、法人会員の皆さまのCSR活動の受け皿となるよう取り組むべきとの思いを強くいたしております。

最後になりましたが、皆さまの本年のますますのご活躍とさらなる飛躍をお祈りして年頭のご挨拶いたします。



【歳時記】

「もう幾つ寝るとお正月」と子供の頃は、お正月が来るのを待ち遠しく楽しみであった。その頃のお正月を振り返ってみると時代の変わりように驚く。

昔は、お正月は、お盆の行事とともに大イベントであった。秋の収穫が終わるとすぐお正月の準備に取りかかる。昔の田舎は、米・麦から味噌・醤油まで自給しており人手がいくらあっても足りない時代で、子供の労力は大いに期待されたものだ。学校から帰ると待っていましたとばかり次から次へと仕事を言いつけられ、雨が降りそうな時には次の日に試験があつてもお構いなしに手伝いさせられた。

お正月の準備としての大掃除といえば、ささ竹で藁葺屋根の煤払いから始まり、柱・棧・床の間・畳と拭き掃除に朝から丸一日がかりである。餅つきは、朝暗いうちから家族全員で取りかかる。母親のそれ、へい、やあ、の掛け声に合わせつく。昼には、とり餅といつづきたての餅にアズキあんをまぶしたお餅が格別美味しかった。また、床の間には、天照大神の掛軸を懸け鏡餅や農作物のお供え物を祀る。

いよいよお正月当日は、朝暗いうちに起きるとまず前日汲み置いた井戸水で顔を洗い、最初の井戸の若水で家族全員がお正月を迎える。

家にお正月の神様をお迎えすれば、父親が祝詞をあげ待ちに待ったお正月が始まる。こうして阿波勝浦のお正月が始まった。お正月三日は、仕事から解放され気兼ねなく喜んで遊んだ気がする。

今でも冠婚葬祭などで実家に帰ると簡略化されているとはいえ昔のやりかたが残っている。実家に育った甥や姪は昔自分が経験したシキタリを身につけており、都会でサラリーマンの下で育つたものとは一味違うようだ。

思いやりや助け合いなど人間として大事な基礎が身につけており、家族の絆が強く養われてるように思われる。

時代の移り変わりもあるが、お正月の用意もお金で買える世の中、お正月があつたという間に過ぎるのは年を取つたせいもあるが、お金で買った分だけ思い出も少なくなつたのではないかと感ずる。(洋)

法人会員紹介

静脈産業の上流を目指して

環境問題の担い手として

当社は平成元年有限会社アサヒ紙業として設立、横須賀市内の集団資源回収を主な仕事としてまいりました。その後業務を拡張し、単に古紙回収にとどまらず産業廃棄物及び一般廃棄物の収集運搬業を加え社名もアサヒリソースに改名しました。リソースは「再生資源」を表し、再生可能となるごみはすべて資源としてリサイクルしようという思いからの改名でした。その後平成18年に組織を株式会社にし、今日に至っております。

現在は事業も4部門に広がり、従来から行っている「集団資源回収部門」では横須賀市内の町内会や小中学校のPTAの皆さんと一緒に汗を流し、「事業系一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業部門」ではいち早く電子マニフェストを導入し、公共施設や一般企業の皆様に喜ばれております。また新たな部門として家電リサイクル法に基づく家電の収集運搬業を行っております。この事業ではある大手の通販会社の横浜市川崎市全区をはじめ横須賀市、逗子市、鎌倉市のリサイクル家電製品の収集運搬を手掛け、おかげさまで財団法人家電製品協会より取扱優良店に選ばれました。また2年前に非鉄部門を創設し神奈川県下では唯一のアルミの溶解に挑戦し、より良い品質のインゴットの作製を目標に製品づくりを心掛けております。加えて非鉄部門はベトナムの現地法人と業務提携し販売先を国内にとどめず新興国にも目を向け、新たな市場の開拓にまい進しており弊社としても今後の成長部門として大いに期待しているところです。

地球温暖化に始まる一連の二酸化炭素削減政策、米国のグリーンニューディール政策、太陽光発電、風力発電、LED照明に電気自動車、二酸化炭素排出量取引制度、そして中国に端を発したレアメタルやレアアースの確保問題と、環境関連の記事が新聞紙上を毎日にぎわせています。

〒239-0831 神奈川県横須賀市久里浜2-25-9-405
TEL.046-847-1366 FAX.046-857-2030
<http://asahiresources.co.jp/>



株式会社
アサヒリソース

これら一連の環境問題は静脈産業の一翼を担う弊社にとって関連企業の皆様のためにも低コストでより良い環境パフォーマンスを提供し、なおかつコンプライアンスの徹底を図り、クオリティーの高いサービスを研究しなければならないと考えております。

弊社も『未来の子供たちのために』をモットーに環境問題と真摯に向き合い、NPO法人『アルミ缶ボランティア』と連携し小中高等学校や個人の方のアルミ缶やプルタブの回収のお手伝いや『エコキャップ推進運動』のNPO法人(内閣府認証)エコキャップ推進協会よりご依頼された鎌倉逗子をはじめとする湘南地区や横須賀三浦地区のエコキャップ回収を一手にお引き受けするなどボランティア活動に積極的に協力いたしております。

また横須賀市内の障害者地域作業所とも連携し資源回収や電子家電製品の分解作業などを通し作業所の皆様と交流を図り、作業所利用者を対象にした弊社主催の「環境ポスターコンクール」はみなさまから予想以上の反響をいただき、来年も第3回目のコンクールを予定いたしております。

今後も環境問題を地球規模で考え足元から(できるところから)行動する会社を目標に静脈産業の上流を目指し企業や行政並びに地域の方々と手を携えて業務に励んでまいりたいと思います。



部会活動紹介

環境事業部会の設立にあたって

環境事業部会が昨年11月に設立されました。前号では、当研究会の環境分野への取組みの動機と基盤について述べました。今回は、その事業目的と今後の事業展開および当面の事業計画を紹介します。



(1) 事業目的

環境分野での当会シニア集団の経験と体験と幅広い人的ネットワークを活かして、広く産官学民との連携・支援活動を始めることにいたします。具体的には、

- 1) 一般市民、中小企業、を対象に、環境問題・課題、解決のための施策などの啓蒙・教育と、持続性ある環境都市として、安全で快適な生活ができる街づくりに貢献する。
- 2) 特に、中小企業については、CSR(企業の社会的責任)を果たして、EMS(環境経営)を基盤にした企業持続性を求める「グリーンイノベーション」(環境関連技術を武器にした企業戦略)を展開し、環境問題・課題を多面的な分野から分析、認識してニーズとシーズの出合いの場をつくり、新しい商品や事業創生に貢献する。

(2) 事業展開

- 1) 環境問題についての啓蒙・教育のために、講習会、勉強会、見学会等の企画・コーディネートをおこなう。
- 2) 行政(県、横浜市、横須賀市)の環境指針、構想、施策について、既存する協議会、プロジェクトなどに参加しての連携・支援活動を考えている。
 - ①「横浜市グリーンバレー構想」と「Eco2Citiesプロジェクト」への参加及び協働事業の提案をおこなう。
 - ②「再生可能エネルギー」(太陽光発電、風力発電、等)導入に向けての産官学連携・支援活動。
 - ③「環境自動車」(電気、燃料電池自動車)の導入及び「カーシェアリング」について、行政との協働事業としての連携・支援活動。
- 3) ごみ・廃棄物の減量化とリサイクル化についての相談及び事業企画・構築の連携・支援活動。
- 4) 東京都と埼玉県がスタートさせた「キャップ・アンド・トレード型排出量取引制度」が神奈川県に導入された際の中小企業に対する支援・連携活動を考えている。

- 5) 「ISO14001」や「EcoAction21」の認証取得支援。
- 6) 既存の「住宅リフォーム事業」と「ホームページ作成事業」との連携・サービスをおこなう。

(3) 当面の事業計画

- 1) 行政(横須賀市、横浜市、近隣市町)や障害者地域作業所との協働事業として、LLC(有限責任会社)やLLP(有限責任事業組合)を組織化して「こでんりサイクル事業」のビジネスモデルの構築を企画する。
- 2) 横浜市大の影山摩子弥教授に会長(座長)をお願いして、環境問題を自由に話せる懇談会形式の「産/学/NPO 交流会サロン」の設立を考えている。中小企業における「CSRを果たしてのEMSを基盤にした」新しい商品・事業の創生につなげる。
- 3) 「横浜市のグリーンバレー構想」や「Eco2Citiesプロジェクト」の協議会、プロジェクトなどへの参加と協働事業の提案をおこなう。
- 4) 「ISO14001」や「EcoAction21」の認証取得支援。
- 5) 既存の2つの事業との連携・サービスをおこなう。
 - ①「住宅リフォーム事業」:「住宅エコポイント」についての一般市民、中小企業への相談、勉強会の実施を連携しておこなう。
 - ②「ホームページ作成事業」:中小企業の「ホームページの環境面の充実」会社の環境方針の作成、経営・技術の特徴の整理を行い、表現・文案の作成を支援する。

今後は、産官学民と連携・支援して、行政といくつかの協働事業に取組み、幅広い事業展開と実利的成果の得られる活動を可能にするために、会員の増員と、他のNPOや技術士会などとの相互連携・協力も図り、連携・支援活動力の強化を図っていきます。

(阿部昭彦)

事務局からのお知らせ

★中小企業支援セミナー開催のお知らせ

2月25日(金)15:00~17:00に神奈川県経済・環境政策及び中小企業の地球温暖化対策と当会の中小企業支援活動の状況につき、横須賀合同庁舎にて実施。

★新入会員紹介

個人会員 近藤勝彦 葉山町在住 大手電機メーカーOB
平野和夫 横須賀市馬堀海岸在住 大手新聞社OB

📍 「よこすか産業まつり 2010」に出展！

2010年11月6日、7日に、記念艦「三笠」前の三笠公園にて開催された「よこすか産業まつり 2010」に3年ぶりに出展。住宅リフォーム事業部会活動を主に当会活動紹介と会員募集が目的でした。



住環境、自動車、ショッピングゾーンに、地産地消の農水産ゾーン、県外の交流都市（会津若松市、松山市、高崎市倉渕町、新潟県五泉市）からの特産品販売もに

ぎやかでした。当会のブースはPR・展示ゾーンにあり、飲食ゾーン、野外ステージへの通り道で人通りの多いところながら素通りされやすいところでもありました。

そこでパソコンで当会会員が制作したスロットマシンゲームを子供にやってもらい、当りなら景品を上げる工夫をしました。もちろん、狙いは孫連れのシニア世代。景品は当会が業務委託を受けたことのある某食品製造会社に寄付をいただき、もう一つ、

青森ヒバで作った積み木も用意しました。同じ形の木型20個全部を使用して組みあげるとというのが課題です。積み木は当会と提携関係にあるNPOが「木育」をテーマに販売戦略を策定しているものを借りました。土台をしっかりとさせようとする子、とにかく高くしようとする子、子供の性格が現れます。意外だったのは、年寄りも興味を持ったことです。聞けば脳梗塞後、不自由になった手・指のリハビリ用具として考えておられたようです。

法人会員、賛助会員の出展は、三浦藤沢信用金庫、(有)原田運送、(株)アサヒリソース、(株)高戸工務店、(株)美装 でした。なお、このとき当会ブースに立ち寄られた某氏は、当会の中小企業を支援するという取り組みに賛同され入会されてご活躍中です。お祭りは楽しむことが大事。私たちも参加して大いに楽しみました。

今後とも市民と一体となった町おこし、商店街の活性化、中小企業が元気になることに一役買ったイベントであることを期待しています。

(堀家彰生)



📍 影山摩子弥・横浜市立大学教授の講演

「生き残りをかけた経営戦略」

円高・デフレに翻弄された平成22年の当研究会活動を締めくく「経営者交流会・忘年会」が平成22年11月25日(木)午後6時から横須賀市産業交流プラザで開かれました。



第1部は横浜市立大学国際総合科学研究院の影山摩子弥(まこや)教授が『生き残りをかけた経営戦略—昨今の厳しい経済環境の中で「勝ち組」中小企業になる

ためのヒント』と題し講演されました。

影山教授は同大学CSRセンターLLP(有限責任事業組合)センター長を務める一方、中小企業を含め地域におけるCSR(企業の社会的責任)活動を評価する仕組みとして注目されている「横浜型地域貢献企業」認定事業の制度設計に携わるなど、特に中小企業のCSR活動に造詣が深い専門家です。

影山教授は昨今とりわけ中小企業にとって厳しい経営状態が続く背景には「社会の変化」があり、その変化に対応するには「社会を観る」必要があると

話しました。そして社会を観る必要を訴えるのがCSRであり、CSRは大企業がやるものと思っている人がいるが、中小企業にとってこそ重要な意味があると指摘されました。

ケインズ主義など20世紀システムの崩壊、日本経済の時代背景(産業構造変換)、CSRをめぐる日米欧の歴史、経団連・経済同友会など大企業によるCSR取組の動きなどマクロ経済にも言及し、最後に『企業は利益を上げて存続せねばならない。「社会的責任」を果たしている良い企業は利益を上げて存続できる』と結びました。(法人会員・個人会員など出席者39名)

第2部の忘年会はご都合で参加できなかった影山教授に代わり千賀重義・同大名誉教授が出席、法人会員、個人会員など合計32名の方々が、新会員紹介、名刺交換など和気あいあいの雰囲気の中で、いっそう厳しさが予想される平成23年の経済情勢などについて話し合っていました。

(平野和夫)



座談会

こんなNPO活動にしたい！(前号のつづき)

地域社会の活性化や地域経済の発展に、企業OBの活用があると思います。
企業のOBである私たちはNPO活動として地域経済、とりわけ地域の中小企業の支援を行ってきています。前号では「こんなNPO活動にしたい」という座談会の話の糸口として当会の良い点、悪い点の座談(2010年9月実施)を紹介しました。今号はそのつづきを掲載します。

(前号よりつづく)
司会…ところでNPO活動で重要なことは何ですか。
H…前も言ったんですけど、60歳以上、定年退職の年齢が確かに年々上がっているけど、フットワークよく、皆さんがやって欲しいことを(実行)するには若い人たちに(それを)広げて、吸い上げて、その人たちに教えて、動いてもらうということは私 大事だと思うんですけど。物理的に年齢的にガチャガチャ大変じゃないですか。
司会…そうですね。
H…若い人たちに智恵を移して、その人たちがやって(実行して)企業に応援できる。
次世代教育みたいなことをクラスターがやることはとっても大事なことです。司会…大変いいことですね。Hさんが実践しておられるのをみていつも感心しています。Dさんは重要なことは何ですか。

D…二つあって、一つは経営基盤をシッカリすることです。NPOで失敗しているケースは経営的に成り立たなくなつたというケースです。
もう一つはボランティア精神と社会奉仕を忘れず、ミッションを確立していることです。
C…私はこれからやはり環境問題を追いかけていきたい。中小企業の中の。会としても長期取り組み課題として決まっています。
B…そういう意味では中小企業支援という軸足はシッカリしてるので、いいんじゃないですか。
D…利益はなくてもいいが、会が存続できる程度には収入があつて欲しい。(笑い)
C…地域コミュニティの形成ということでは、今やっている産学連携を進めたいと思います。
B…当会は内閣府認証のNPOですが、更に一段上の認定NPOになる努力が必要ですよ。つまり寄付金が会の所得の20%を超えることです。
D…今春よりいろいろ検討をしています。認定NPOのことです。
G…当会が続けていけるかどうかは景気に左右される。景気が悪くなるとその影響はもろに中小企業の皆さんが受ける。そこでわれわれの出番が高まる筈なのに、中小企業の皆さんは仕事がないからわれわれに依頼や相談する案件も減ってくる。余裕もない。そういう循環ですね。

司会…結論は経営基盤をシッカリするということですか。あまり現役の時と変わらない話になりました。(笑い)
話しは尽きませんが今回は一応このくらいにしたいと思います。
A…今日は大いに盛り上がりました。中小企業の皆さんをどう支援するかという点では突込みが足りないところがありました。次回またやりたいですね。



(編集後記)

有志による久々の座談会でありました。前号と併せて読んでいただければ幸いです。

NPO活動をやっていく上での私たちの課題として出てきたことは

- (1) 社会貢献と経営との兼ね合いをどうするか
- (2) やりがいのある面白い活動をする
- (3) 若い人との連携と我々の活動の智恵を次世代へバトンタッチすること

などでありましたが、結論的な纏めとはなりません。これはただただ司会者の力不足ですのでお詫びいたします。(佐)

発行：NPO法人 産業クラスター研究会 / 〒239-0847 横須賀市光の丘 8-3 YRPベンチャー棟 209号
Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp
横浜事務所 / 〒236-0055 横浜市金沢区片吹 69-26
Tel : 045-781-8025 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武